

## 子どもサバイバル教室「竹を割って削って流しそうめん」

防犯青少年育成部会

子どもサバイバル教室担当

中川和之

令和2年8月2日(日)午前10時半より、大野東市民センター、柿ノ浦4号公園にて「子どもサバイバル教室」を開催しました。今回は竹材をナイフで削ってお箸を作り、そのお箸を使って流しそうめんをするというものでした。

当日は大野一区の子ども会会員18名と保護者14名、インストラクター2名、更生保護女性会5名、万年青会1名、役員・部会員9名と大勢の参加者が集まりました。

まず、子どもたちには「肥後守(ひごのかみ)」というおじいちゃん、おばあちゃん世代には懐かしい手作りの小型ナイフを配られ、インストラクターのタンタン先生(田中雄司さん)からナイフの扱い方の説明をうけました。

その後竹材を選んで各々お箸作りに挑戦しました。1年生から6年生まで全員最初は悪戦苦闘していましたが、徐々に慣れてきてみんな上手に削れるようになりいいお箸ができました。子どもたちの吸収力はすばらしいと思いました。

お箸ができたあとは、市民センターから公園に場所を変えていよいよ流しそうめんが始まりました。更生保護女性会のみなさんが茹でてくださったそうめんはじめ、ミニトマト、ゼリーなどを流し、梅雨が明けた直後の暑い日差しの中、自分で作ったお箸を使って子どもたちも親御さんもスタッフも皆おいしくそうめんをいただきました。そうめんや茶そばをたくさん用意したのですが、アツという間になくなってしまいました。

そうめん後は、綿菓子づくり体験をしました。子どもたちにとっては初めての体験となる子も多かったようで、さまざまなかたちの綿菓子ができましたが味は変わりません。みんな自分でつくった綿菓子を美味しそうに食べていました。

今回は新型コロナウイルス感染症が再び拡がっていくなか、感染予防対策にも十分気を付けました。全員に最初に検温、手の消毒・手洗い、マスク着用、距離の確保のためそうめん流し台を2つ設置するなど気を付けました。これらもサバイバル(生き残り)のためには必要なことです。今後も感染予防策の周知も子どもサバイバル教室の大きなテーマとしていきたいと思えます。

まずは、全員怪我無く無事終了したことに感謝したいと思います。参加者のみなさん、ありがとうございました。